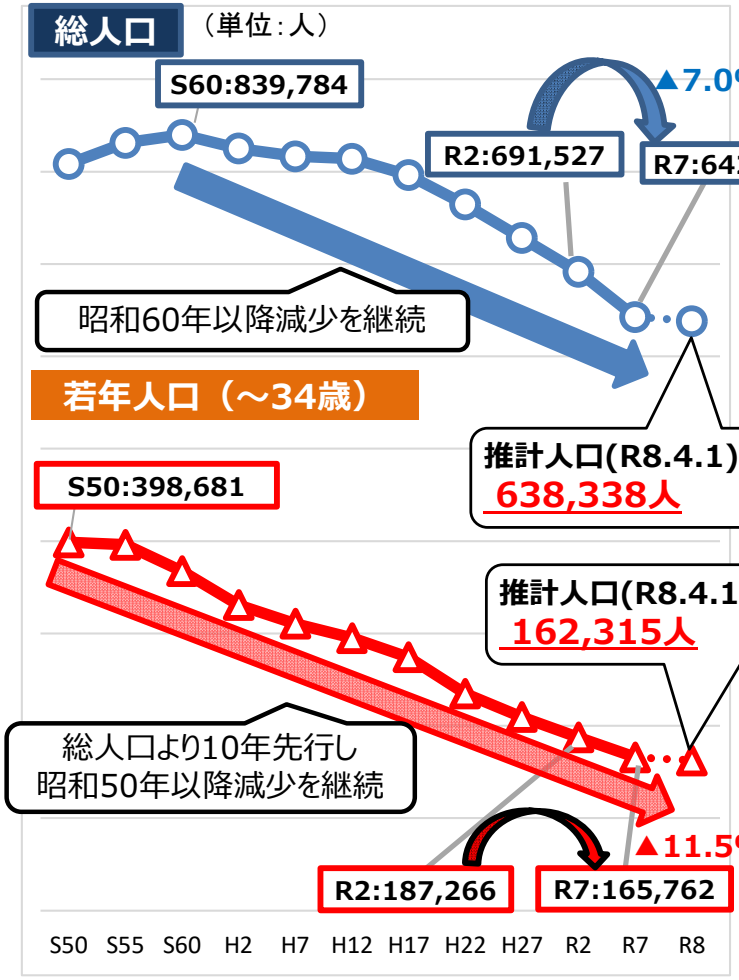
高知県の人口等の状況（概要）

資料１　令和８年11月９日
第１回創造戦略推進委員会

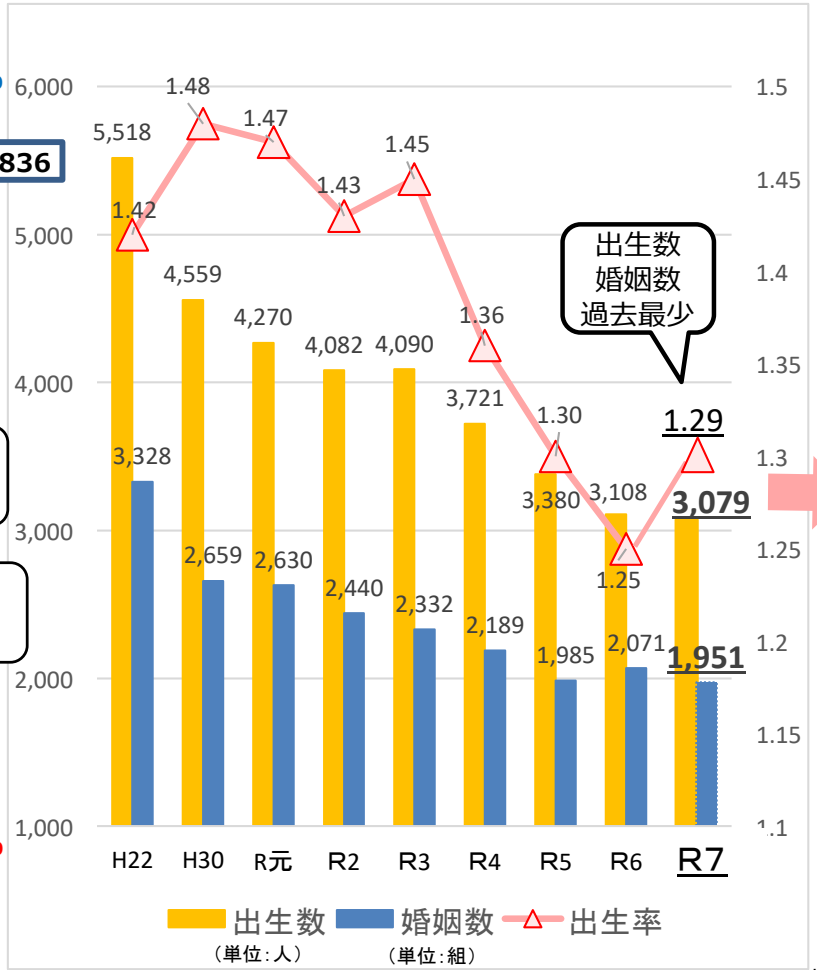
■高知県の総人口は、昭和60年以降減少を続けており、特に34歳以下の若年人口は、昭和50年以降減少
■高知県の出生数は、R7年で3,079人と前年（R6：3,108人）よりも減少したものの、その減少幅はここ数年よりも縮小
■出生数減少の最大の要因は、若年女性の転出超過
■高知県の高齢化率は全国2位の36.9%（全国平均29.4%）
高齢化が全国に先駆けて進んでいる本県の状況を踏まえると、当面の総人口の減少は避けられない

高知県の総人口と若年人口の推移



出典：総務省「国勢調査」（S50年～R7年）（10/1時点の人口）
県統計分析課「高知県推計人口」（R8）

高知県の出生数・婚姻数・出生率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」（日本人のみ）

直近の人口の状況

			R７年度
前年度からの総人口増減			▲ 9,975人
	自然増減		▲ 7,640人
		出生	3,028人
		死亡	▲ 10,668人
	社会増減		▲ 2,335人
		転入※	10,300人
		転出※	▲ 12,635人

本県の年齢構成を踏まえると、大幅な自然減は当面不可避

出典／「高知県推計人口」（年度集計、外国人を含む）
※転入、転出は住民基本台帳人口移動報告の都道府県内移動者数（9,654人）を県推計人口の転入、転出数から差し引いて計算

出生数減少の要因分析

コロナ以降

	H22-R7 (全国順位)	R2-R7 (全国順位)
若年女性人口	▲32.8% (42位)	▲11.3% (38位)
婚姻数	▲41.4% (38位)	▲20.0% (44位)
有配偶出生率	▲11.0ポイント (18位)	▲5.8ポイント (25位)

・中長期には、若年女性の人口減少が影響
・短期的には、婚姻数の減少が影響

出典：総務省「人口推計」、厚生労働省「人口動態統計」
※有配偶出生率は、国勢調査実施年のR2,R7以外の年は人口減少率を反映した推計値を用いて試算

高知県の出生数と18歳・23歳時点人口の推移

資料１　令和８年11月９日
第１回創造戦略推進委員会

- 出生数は、1987年から2007年で３割以上減少しており、2007年から2027年ではさらに約５割減少する見込み
- 23歳時点人口は、進学や就職によって出生時から減少する傾向にあり、20年後に18歳を迎える、2027年生まれの年代では、23歳時点で出生時の3/4になる見込み。

	1987年 生まれ （20年前の18歳）	2007年 生まれ （現在の18歳）	2027年 生まれ （推計） （20年後の18歳）
出生数 （0歳時点）	8,405人	5, 717人	2,904人
18歳時点	7,677人 （2005年）	5,498人 （2025年）	2,745人 （2045年）
23歳時点	5,809人 （2010年）	4,303人 （2030年）	2,148人 （2050年）

△32.0%　△49.2%　△5.5%　△21.7%　△26.0%

（出典）総務省「国勢調査」及び厚生労働省「人口動態統計」をもとに高知県が推計